保二年陽廣公逝去の時分出家、致剃髮高野山へ罷越し、涼心と改稱仕候に付、妻堀田氏は加賀守へ被引取候。其後又改稱松濤軒了心し武州へ罷越、母祖心と一所に罷在候。晩年に及て又摘髮し、妾承野氏を召置き四男子出生す。一男直良は祖心の願に付、牧村氏を稱し兵四郎と云ふ。次男直之は青木氏の養子と成り、新兵衛と稱し候。兩兒は致早世候。別腹に又一男を生じ、宇野氏へ養子と成り、武兵衛直故と稱す。新兵衛・武兵衛今現に本藩に祿仕す。了心元祿六年癸酉八月卒。享年八十二歲。

一、鳩巢先生祭青地齊賢文

余兄伯孜君身まかりければ、鳩巢先生傷怛の餘り辭を千里に緘て、余をして靈座の下に讀ましむ。既に祭奠し畢て感泣の情に不勝、聊腰折一首を讀て懷を述るもの也。于時己酉二月初七日禮幹拜。

千里よりなげ木をつゝむ言の葉に君が二人の心をぞしる

維享保十四年。歲次己酉。正月十九日。室直清。遠具茶菓。敬祭于青地君伯孜之靈。嗚呼伯孜命止斯耶。哲人其萎。古今所嗟。惟君孝友。爲政於家。方其在國。聲譽日加。既而登庸。利劍就磨。解紛治劇。英鋒莫遮。偉哉若人。大邦之華。況復崇儒。隆師親友。求之士林。罕見其偶。吾在朔方。學行無取。君廼相信。不渝於久。三十餘年。眷顧滋厚。謂君强健。必得其壽。豈料忽亡。使吾在後。嗚呼哀哉。往吾東徒。尺素往復。千里雖阻。寸心可掬。中遭家災。生計縮縮。君爲經營。恩如骨肉。交誼之篤。聞者嘆服。辱知無報。老朽自恧。今也聞裹。不能甸匐。感念當時。失聲望哭。嗚呼哀哉。尚饗。

伯孜以去十二月二十五日戊時逝。享年五十七歲矣。

一、武藏七黨　水戸公史館より傳寫。

武藏七黨

私黨（シノ）（ケイチノ）　私市姓　成田。忍。酒巻。中條。別府。須賀。荒西。

猪股黨　小野姓　敏達天皇後胤　横山。荻野。岡部。人見。平山。江戸。藤田。精屋。屋一。作谷。甘糟。菅沼。金田。山崎。

兒玉黨　藤原姓　藤原岩流　本庄。倉賀野。

丹黨（ノ）　丹治姓（タヂノ）　宣化帝後胤　川嶋。久下。能谷。青木。勅使河原。安保。

野與（ノヨ）　平姓　桓武帝後胤　同姓　同帝後胤　村山

日孝姓　天中主尊の後胤　日奉（ヒマツリ）

右七黨の內野與・村山・日奉の三家は後衰微。後代は此三家を除て四堂（シノ）と云ふ說あり。

一、始行官位

日本紀。推古帝十一年十二月戊辰朔壬申。始行冠位。大德。小德。（今四位）大仁。小仁。（今五位）大禮。小禮。（今六位）大信。小信。（今七位）大義。小義。（今八位）大智。小智。（今初位）并十二階並以當色絁縫之。頂撮揔如囊而著緣焉。

一、淺香山の歌を詠る采女

淺香山の歌を詠る采女は、葛城の大君の妻也。葛城の大君は橘の諸兄の事也。又猿澤の池にしづみし采女は、天智天皇につかへし女也。淺香山の作者にはあらず。

一、深草院と申すは仁明天皇の御事

深草院と申は仁明天皇の御事也。又小松院とも奉稱。順子天皇とも奉申也。光孝天皇古今集には仁和の帝とあり。

一、漢籍に現れたる笑の字義

匡衡說詩。使人解顋。漢書如淳曰。解顋使人笑而不能已。

夫子樂而後笑。雷間寫。

軍士皆樂而笑之。漢高祖本紀。

右三件皆面白がりて笑ふなり。

其爲士者皆笑之。婁心篇。宮女皆掩面而笑。史孫子傳。

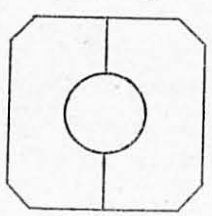
貽笑後世。語書多在。

右三件はをかしがるなり。

一、檜排と葉椀

檜排（ヒツキ）　杉のへげめみがきの薄板二枚にて、眞中にてはぎ合せ、はぎ目にてとぢ、二枚にて大きさ九寸五分四方許り、中央こしきの樣に輪をする、輪の深さ一寸餘、さしわたし七寸餘、薄板九寸五分、四方の角をおろす也。檜排

右神供を盛る器にて往古より有來りふるき器也。



圖

土器などの類にてかけながしの物なり。寸法も先は有ながら、時により大小有之。

葉椀（クボテ）　是はかしはの葉を竹の針にてさし器となすもの也。是も神供を盛もの也。

一、葛卷昌興の遺詠